

コミュニケーション力を高める授業実践  
小学6年生（重複Ⅱ課程）

実態把握から目標設定へ

<児童の実態> 三重病院5病棟に入院中 通常はベッドサイド授業  
先天性四肢短縮症（骨が伸びない病気で、四肢が短い） 骨折しやすいので注意が必要 気管切開・経鼻栄養注入  
呼吸器は夜間のみ装着 経鼻チューブや気切カニューレを外す危険があるので常時ミトンをしている  
人工鼻はすぐ外してしまうため、ベッドでは常時ネブライザーを使用 気切のため発語はなし  
右利きのため、左下側臥位の姿勢が多いが、寝返りでの移動可能 簡単な指示を理解し、応じることができる  
手を動かして VOCA を押したり、タブレットに触れたりできる 過敏があるため、触られることが苦手



<個別の指導計画 自立活動 重点目標>

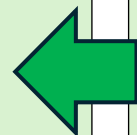
- ①発声や体の動き、カードや VOCA により意思表出の選択手段を増やす
- ②目で見て手で操作することで、結果が返ってくる楽しみのある活動を増やす

<スコア12 目指す段階>

言語指示への応答、相互的なやりとりの拡大、発語、数量への対応、  
活動と結果のつながりの理解、手指の巧緻性、移動

<スコア18 目指す段階>

言葉の理解、意図の理解と共有、要求の明確化、数量概念の形成、  
対象、事象の関係づけ  
※発語と操作が難しいが、認知としてはスコア12～24も芽生えあり



<学習到達度チェックリストを使用した国数の実態と指導目標>

【国語】

- (聞くこと)スコア8 スコア12～24にも△○あり
- (話すこと)スコア8 スコア12～24に△あり
- (読むこと)スコア8 スコア12～18に△あり
- (書くこと)スコア2 操作が難しいためスコアが低い理解は○

指導目標

- ・身近な人からの働きかけに注目したり、応じたりすることができる
- ・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすることができる
- ・身の回りの理解できる語彙を増やす

【算数】

- (数と計算)スコア8 スコア12～24に△あり
- (量と測定)スコア8 スコア12に○△あり
- (図形) スコア6 スコア18にも△あり

指導目標

- ・身の回りの物の同じ・違うや、大きさや形に注目したり、手を伸ばしたりする
- ・具体物の有無や数の変化に関心を持ち、画像や具体物に注目したり、触れようとしていたりする



<参考文献>

「障害の重い子どもの  
目標設定ガイド」  
徳永豊 著



<専門家・関連機関との連携等 小1～小6>

- 令和2年(1年生) かがやき特別支援学校 緑ヶ丘校に入学  
ICTの活用(視線入力 タブレット VOCA 等の使用)
- 令和3年(2年生) 三重病院5病棟児童生徒 草の実校に移管
- 令和4年(3年生) ST OT リハ開始 多職種カンファレンス開始  
放課後に病棟スタッフとシーツプランク開始
- 令和5年(4年生) 車いすに座って座学スタート(毎日30分～1時間)
- 令和6年(5年生) 教育課程 重複Ⅱに変更  
医療的ケア実施 通学スタート(週1回15分程度)
- 令和7年(6年生) 通学時間を延長(1学期15分→2学期45分に)

病棟リハ(PT)

- ・過敏があるので、手指にしっかり触れる(手袋の上からでもよい)
- ・坐位を取って、視線と手の位置が一致するようにして、操作することによって結果が返ってくることに気づかせる
- ・いろいろな姿勢をとる



病棟リハ(OT)

- ・車いすに座る時間を増やす
  - ・着座姿勢で手を挙げる活動をする(左手も使えるように)
- 病棟リハ(ST)
- ・好きな活動をタッチで選択する
  - ・ジェスチャーを使う



### 【自立活動のとりくみ】

「からださん元気ですか体操」  
「手指の体操」  
手指を中心に体全体に触れられることに慣れてきた。



指1本で押せるよ！

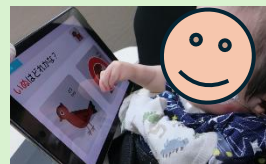
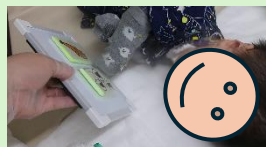


「バイブレーター」  
「音楽や画像が出る教材」  
触れることで、振動や音が返ってくることに気づき、積極的に手を伸ばすようになった。



### 【国語のとりくみ】

「おべんとうバス」  
「さるかにがっせん」  
教員と一緒にページをめくったり、カードを選んだり、教材を操作したりできた。



「どっちかな？」  
絵本で動物や果物などを学習した後にアプリを使って〇×問題をすると、正解率が上がった。

### 【算数のとりくみ】

「みんなでポン」  
紙芝居や具体物で形の学習をしてから〇×問題に取り組んだ。



「3匹のやぎとトロル」  
エプロンシアターやカードで数量の学習を行い、1～3の具体物を操作しながら数える活動を行った。

「どっちかな？」  
大小、多少の〇×問題に取り組んだ。

### ①情緒面（社会体験の増加）

2年生の時は授業で泣いてばかりだったが、次第に教員や学校の授業に慣れて、笑顔が見られるようになった。  
登校もできるようになり、新しい場所や人に緊張しながらも落ち着いて活動に参加できるようになった。



## 小学部で成長したこと

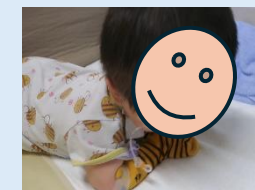
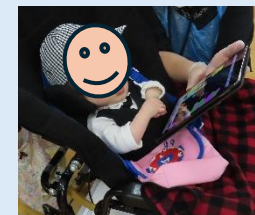
### ②コミュニケーション（意思表示の手段の獲得）

嫌な時に鼻注のチューブをひっぱることはまだあるが、病棟と連携して手を後ろへまわす動作を教えると、できることが増えた。やりたい時や返事に手を挙げる以外に「ぷー」という発声をすることもある。



### ③身体面（姿勢変換や運動量の増加）

車いすに座る姿勢 最初は食後胃を圧迫して苦しそうなこともあったが、毎日座学の習慣をつけたことで、30分～1時間座っても大丈夫になった。  
座学で両手を使いやすくなり、腕を前に押し出す動きもできるようになってきた。  
ベッド上では、広く動けるスペースをとってもらい、寝返りでの移動が多くなり、うつ伏せで頭を上げてキープできるようになった。



### 今後の課題

★嫌な時の意思表示の確立

鼻注のチューブに手をかけるのではなく  
手を後ろにする動作を習慣化する

### ①コミュニケーションの課題

★したい時の意思表示の方法を増やす

- ・教員の手タッチ
- ・手を挙げる 「ぷー」と発声する
- ・VOCA やカードに触れる

### ②目と手の協応の課題

★見える位置と手で操作できる位置の不一致

→姿勢や提示位置の調整 機器のスタンド使用など

★利き手側（右）にタッチすることが多い

→左手も使えるように練習する